

出
会
い

か
お
ふ
り

顔
振
峠
の
パ
ニ
ガ
ー
レ

う
ら
ち
や
ん

人
物

青山航一（32）整備工場の整備士

後藤明里（25）警視庁・白バイ隊員

寺山周作（56）整備工場・工場長

○ 顔振峠・全景

緑深い山間全体に薄い雲がかかって、
強い雨が降っている。

○ 同・峠道

九十九折りの舗装道路、青山航一（3
2）と寺山周作（56）らのバイク4
台の車列が雨の中を登っている。

○ 同・同・青山車

ハンドルにあるインカムのスイッチ
を押下して、

青山「寺さん、上の茶屋で休憩しよう！」
寺山の声「ラジャ、ジジイには限界だぜ」

○ 同・峠の茶屋・駐車場

雨の中、青山らのバイクの車列が順番
に入ってくる。

○ 同・同・軒下

青山たち雨具を脱いで雨模様を見て
いると遠くから爆音が響いてくる。一
同、眼下の道路に目を向けてみる。

寺山「お、なんだ、なんだ、こんな雨の中、
死ぬつもりか？あいつ」

青山「あれ、C B 6 5 0 R？ですね？」

○同・峠道

雨中を赤いレーシングバイクが一台
ヘアピンカーブを高速で登っている。

寺山の声「プロのレーサーじゃねえかあ？」

青山の声「うん、体重移動がうまい！」

○同・峠の茶屋・軒下

青山たちが雨具を片付けながら、バイ
クの行方を見守っている。

寺山「おいおい、オンナだよ、航（こう）ち
ゃん」

青山「やっぱ、C B 6 5 0 Rだわ」

寺山「そこかい！」

○同・峠の茶屋・駐車場

雨中を赤いバイクに跨った後藤明里（25）が轟音と共に入って来て駐車し、店に向かって小走りに走りですが、一台のバイクの前で立ち止まり、ヘルメットとって、バイクを見ている。

寺山の声「お、航ちゃんのバイク見てんぞ」

○同・峠の茶屋・軒下

青山らは片付けが終わって、軒下で並んで、雨中の明里の姿を見物するよう
に眺めていると、寺山が大声で、

寺山「お嬢さん、濡れますよ！」

○同・峠の茶屋・駐車場

雨中の中、その声に気がついた明里が
こちらを見て、

明里「このパニガーレ、おじさんの？」

○峠の茶屋・軒下

明里にガン見されて、硬直する寺山が
寺山「あ、はい、いや、それは」

他の二人が航一を指差し、それを頷いて見ている明里が立ち上がり近寄って来る。青山を見て笑顔になって、

明里「パニ乗りって感じ、似合ってますね」

青山「君の走りも人馬一体っていうか、なんか、安心して見てられた。すごかったよ」

明里「人馬一体？それって褒めてます？」

寺山「褒めてる、褒めてる！ところで、プロのレーサーかい？攻め方が普通じゃない」

明里「とんでもない！普段あんな乗り方出来なんで、ついつい、攻めちゃいました」

航一「普段？いつもは、何乗ってるの？」

明里「今はG L 1 8 0 0とかです」

寺山「えー！そりや、そうとうな猛者だな！

国産車じゃあ、超白バイ隊クラスだぜ」

青山たち一同が頷いている。

航一「なるほど、G L 1 8 0 0じゃ、車重が重すぎて、あんな乗り方できないなあ」

明里「はい、それでストレス溜まってて…」

寺山「えっ？、ところで、なんの仕事してん

だい？そんなバケモン乗るって…」

明里「…」

青山「寺さん、やめなよ、その詮索ぐせ」

一同、苦笑して駐車場に目をやる。

○同・峠の茶屋・駐車場

雨の中、青山のバイクの隣に明里のバイクが並んでいる。

う
ら
ち
や
ん